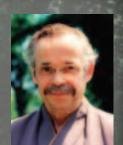
## E S S A G E

## 一日本とフィンランド

ツルネン マルティ

として来日、1979年日本に帰化。日本古典文学の翻訳、英会話塾経営 などを経て1992年神奈川県湯河原町議会議員に当選。2002年参議院 議員初当選。現在2期目。



2002年に私が参議院議員に初当選したとき、母国フ ィンランドの幼なじみから素晴らしいメッセージが届き ました。

「あなたが遠い日本で国会議員になられたことを、村 の森に報告します。もしあなたが現在も故郷の森を恋 しく思うのなら、その森もきっとあなたを見守り、祝福 することでしょう。

森はすべてのフィンランド人に多くの祝福と恵みを与 えています。フィンランド人にとって森は守り神です。 1939~40年の「冬戦争」でも、フィンランドが大国ソ連 と戦い、独立を守り通せたのは森のお陰だったと人々 は信じています。また現在のフィンランドの経済も森林 に支えられています。木材の輸出は国の主要産業の一 つだからです。

私の生家は酪農農家で森林が20haありました。私自

身も父を見習い、木を切る仕事もやりました。切り出し た松の丸太を湖面に浮かせ、その上に乗り、船で曳い て運ぶ仕事も体験しました。長い冬の夜には、家の中 で白樺の皮を編みバスケットや鞄などを作りました。父 が大工だったので木の家造りも手伝いました。秋には 家族総出で森へ出かけ、野生のコケモモやブルーベリ ーなどの木の実やキノコを食材として集めるのが日常 の仕事でした。森は文字通り私を育ててくれたのです。

私と同様、多くのフィンランド人は森と親しく暮らし ています。フィンランド人は今もなお木々と共存する森 の民なのです。森は彼らの原動力になっています。フィ ンランドの森は優しくて暖かく、そこで暮らす人々の心 に落ち着きと癒しを与えます。森はまさにオアシスであ り聖地でもあります。現代人は森の中で慌しい日常生 活から解放され、元気を取り戻すことができるのです。

フィンランドの木の文化は本物志向です。建物も家具

も偽物や見せ掛けだけのものを許しません。子どもの おもちゃもプラスチックより木製が人気で、日曜大工で は木工品を作るのが盛んです。都会でも家の修理や家 具を自分で作ることが自慢なのです。

日本もまた古くから木の文化を誇る国です。「木霊| という言葉があるように、日本でも樹木や森に神の魂が 宿っていると言われています。木の家は環境に優しく 健康にもよいと考えられていますが、残念ながら現在 日本で使用される木材の大半は輸入に頼るようになり、 そのため国内の森林は荒廃しました。都市においても 生活の中の木の文化が廃れ、木が与える潤いや安らぎ が暮らしの中から失われています。

我々は木の文化をもう一度見直さなければなりませ ん。森は様々な形で、今なお我々に多くの恵みを与え てくれるからです。森のおかげでこれまで大気中におけ

るCO2のバランスが維持されてきた訳ですが、今はCO2 の排出量が過剰になり、森の力だけでは全てを吸収で きません。人間の力で森林を増やし、地球温暖化を抑 えることも必要です。

日本でも住まいとしての木造建築を見直すべきです。 木は建物になっても生き続け、呼吸をします。人間は 木の家のほうが長生きできるという統計もあります。本 来、「休 |という字は「人が木に寄り添う |ことを表わし、 英語で「forest(森)」は「for rest(休むために)」を意味 しているという説もあります。日本人とフィンランド人の 長寿の秘訣は「木の文化」に由来しているのかもしれま せん。

できれば私も、木の家に住みながら、100歳まで長生 きできることを願っています。

自称「森男」 ツルネン マルテイ

フィンランドの森(写真提供:ツルネンマルテイ)